

1. 科目名 (単位数)	質的教育研究法 (2 単位)	3. 科目番号	EDMP5221
2. 授業担当教員	【池袋】坂井 二郎 【名古屋】石崎 達也		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	現代の多文化共生時代における子どもを取り巻く環境と問題は多様化・複雑化しており、それらに付随する教育事象を探究・検証するためには量的研究方法だけでなく質的研究法の理解が必要となる。そのため、まず量的研究方法との比較において質的研究法の概要・意義・手続き・倫理的側面等について説明する。次に本授業では質的研究法に焦点を置き、様々な質的調査法を検討すると共に、収集したデータの質的分析法についても学修する。また、授業の最後の部分では、それまでに学修してきた理論的知識を各自が関心のある教育事象に適宜応用し質的研究の実践を行っていく。		
8. 学習目標	<p>授業においては現代社会の複雑化・多様化した諸教育問題・事象に対し質的研究法を通して調査・分析できることを目指す。そのためにまず質的調査法と質的データ分析法の概要に関し学び説明できるようになることを目的とする。次に各自の興味・関心のある研究対象に対し学修した質的研究法の知見を適宜適用し質的調査・分析ができるようになることを目標とする。具体的な学修目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究方法との比較において質的研究法の特徴・意義・課題等について理解し自分の言葉で説明できるようになる。 2. フィールドワークやインタビューを初めとする具体的な質的調査法の概要・特徴・手続き等について理解し自身で説明できるようになる。 3. 具体的な質的データ分析法の概要・特徴・手続き等について理解し自身で説明できるようになる。 4. 質的研究法における倫理的側面について理解し自身で説明できるようになる。 5. 1 から 4 の理解に基づき、自身の興味・関心のある教育事象に対し質的研究法を適宜適用し調査・分析ができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業で適宜指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 太田裕子 (著) 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへー研究計画から論文作成までー』東京図書、2019 年。</p> <p>【参考書】 ケネス・ガーゲン (著) 『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版、2004 年。 関口靖広 (著) 『教育研究のための質的研究法講座』北王路書房、2013 年。 Flick, U. (1995) <i>Quantitative Sozialforschung</i>, Rowohlt Verlag, GmbH, Reinbek bei Hamburg. (邦訳) フリック、ウヴェ (著) 『質的研究入門ー“人間の科学”のための方法論ー』春秋社、2011 年。 佐久川肇 (編著) 『質的研究のための現象学入門ー対人支援の「意味」をわかりたい人へ 第 2 版』医学書院、2013 年。 桜井厚、小林多寿子 (著) 『ライフストーリー・インタビューー質的研究入門』せりか書房、2005 年。 Riessman, C.K. (2008) <i>Narrative methods for the human sciences</i>. Thousand Oaks, CA: Sage. (邦訳) リースマン, C.K., 大久保功子/宮坂道夫監訳 『人間科学のためのナラティブ研究法』クオリティケア、2014 年。 S.B. メリアム (著) 『質的調査法入門: 教育における調査法とケース・スタディ』ミネルヴァ書房、2004 年。 西条剛央 (著) 『ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM ベーシック編』新曜社、2007 年。 木下康仁 (著) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践ー質的研究への誘い』弘文堂、2003 年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究方法との比較において質的研究法の特徴・意義・課題等について理解し自分の言葉で説明できるようになったか。 2. フィールドワークやインタビューを初めとする具体的な質的調査法の概要・特徴・手続き等について理解し自身で説明できるようになったか。 3. 具体的な質的データ分析法の概要・特徴・手続き等について理解し自身で説明できるようになったか。 4. 質的研究法における倫理的側面について理解し自身で説明できるようになったか。 5. 1 から 4 の理解に基づき、自身の興味・関心のある教育事象に対し質的研究法を適宜適用し調査・分析ができるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業態度・・・・・・・・・・ 30%</p> <p>授業内課題提出・・・・・・・・ 30%</p> <p>最終レポート (発表含む)・・ 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	教育学研究は、様々な教育的事象を探究・検証するため、量的研究方法だけでなく質的研究法の理解が必要となる。受講生は、積極的にフィールドワークを行い、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。		
13. オフィスアワー	坂井二郎：授業時に通知する。 石崎達也：授業時に通知する。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		

1. テーマ	教育における質的研究法と量的研究法
【学習の目標】	量的研究法との比較において質的研究法の特徴・意義・課題等について理解する。
【学習の内容】	量的研究と質的研究の方法論と方法について理解する。
【キーワード】	方法論と方法, 実証型研究と探索型研究, エミックとエティック, 混合法
【学習の課題】	量的研究法との比較において質的研究法の特徴・意義・課題等について理解し、自分の言葉で説明できるようになったか。
【参考文献】	ケネス・ガーゲン (著)『あなたへの社会構成主義』
【学習する上での留意点】	参考文献を熟読し、量的研究と質的研究の特徴・意義・課題について整理すること。
2. テーマ	質的研究における研究課題の設定
【学習の目標】	質的研究における理論的枠組みと研究課題の設定について理解する。
【学習の内容】	質的研究の〈多様性〉について理解した上で、自らの言葉で説明することができること。
【キーワード】	多様性, 複雑性, 質的研究に適した研究課題, 現象や出来事の内側からの理解
【学習の課題】	文献レビュー: 質的研究を用いて書かれた論文を読み、その構成要素に関する小レポートを作成すること。
【参考文献】	フリック、ウヴェ (著)『質的研究入門―“人間の科学”のための方法論―』
【学習する上での留意点】	教育学研究において、「なぜ質的研究が求められているのか」や「自らの立場をどこに置くか」という問いに対する応答を考えながら学習すること。
3. テーマ	質的研究における事例の選出 (サンプリング) の方法
【学習の目標】	質的研究において、研究の目的によって「研究対象者 (の数)」や「サンプリングの方法」が異なることを理解する。
【学習の内容】	質的研究において、「どうやって研究対象となる人や活動や場所を選ぶのか。どのくらいの数がふさわしいのか」について理解した上で、自らの言葉で説明することができること。
【キーワード】	目的的サンプル, 典型的サンプル, 独自のサンプル, 多様性をもったサンプリング, 便宜的サンプリング, ネットワーク型サンプリング, 理論的サンプリング, 理論的飽和
【学習の課題】	文献レビュー: 質的研究を用いて書かれた論文を読み、どのようなサンプリングの方法が選択されているかについて調べて小レポートにまとめること。
【参考文献】	関口靖広 (著)『教育研究のための質的研究法講座』
【学習する上での留意点】	自らの研究の目的や研究上の立場を確認しながら、それらに適した選出の方法を選択できるように学習すること。
4. テーマ	質的研究における研究倫理
【学習の目標】	質的研究にかかわる倫理上の問題と留意点について理解する。
【学習の内容】	質的研究における倫理上の問題が起こる時 (調査を行う時・分析する時・公表する時) とそれぞれの時に起こる倫理上の問題を考えた上で、それらの問題に対して、調査者が留意すべき点について理解すること。
【キーワード】	研究倫理ガイドライン, 研究協力依頼書, 研究倫理遵守に関する誓約書, 研究協力同意書
【学習の課題】	自分の調査研究において、どのような倫理上の問題が生じ得るか、どのような点に留意して調査研究を行う必要があるか、受講生同士で、様々な可能性を考え、お互いに指摘し合った内容を小レポートにまとめること。
【参考文献】	関口靖広 (著)『教育研究のための質的研究法講座』
【学習する上での留意点】	質的研究を行う過程において、調査者は、様々な「正解」のない倫理上の問題にも直面するため、学習を通して自らの判断力を磨くこと。
5. テーマ	質的研究の調査法 (1): 「観察法」の理論
【学習の目標】	質的研究における「観察」の特徴、何をどのように観察するのか、観察した内容をどのように「書く」のかについて理解する。
【学習の内容】	質的研究における「観察」の位置づけ・特徴・長所を理解した上で、実際の授業観察において観察すべき事柄やポイント等をまとめること。
【キーワード】	参与観察, 非言語的コミュニケーション, 観察者の立場, 活動と相互作用
【学習の課題】	実際に授業観察を行い、「フィールドノート」を作成すること。
【参考文献】	関口靖広 (著)『教育研究のための質的研究法講座』
【学習する上での留意点】	授業観察の実践に向けて、担当教員への依頼を含め、事前に十分に準備を整えること。
6. テーマ	質的研究の調査法 (2): 「観察法」の実践
【学習の目標】	質的研究における「観察」の特徴、何をどのように観察するのか、観察した内容をどのように「書く」のかについて理解した上で、〈分厚い記述〉ができるようになる。
【学習の内容】	各自が授業観察を行った後、書き上げた「フィールドノート」を受講生同士で読み合い、お互いの「観察」の視点を吟味すること。
【キーワード】	現場メモ, フィールドノート, 間主観性, 鳥の目・虫の目
【学習の課題】	受講生同士でお互いの「フィールドノート」を読み合い、話し合った内容を小レポートにまとめること。
【参考文献】	関口靖広 (著)『教育研究のための質的研究法講座』
【学習する上での留意点】	「フィールドノート」を書き上げる体験を通して、質的研究における「書く」ことの重要性を深く感じ取ってほしい。
7. テーマ	質的研究の調査法 (3): 「インタビュー法」の理論
【学習の目標】	質的研究における「インタビュー法」の特徴と種類、手続きについて理解する。
【学習の内容】	質的研究における「インタビュー法」の特徴と種類、手続きを理解した上で、実際のインタビューにおいて観察すべき事柄やポイント等をまとめること。
【キーワード】	構造化・半構造化・非構造化インタビュー, よい/悪い質問, よい/悪い聴き方
【学習の課題】	具体的なインタビュー計画を立て、インタビュー・シートを作成した上で、受講生同士でお互いにインタビューを行うこと。

	<p>【参考文献】 桜井厚、小林多寿子（著）『ライフストーリー・インタビュー―質的研究入門』せりか書房、2005年。</p> <p>【学習する上での留意点】 語りを生み出すインタビューのあり方を自分なりに考えてみる。</p>
8. テーマ	質的研究の調査法（4）：「インタビュー法」の実践
	<p>【学習の目標】 質的研究における「インタビュー法」の特徴と種類、手続きについて理解した上で、実際にインタビューを行い、語りを生み出すインタビューの方法を身につける。</p> <p>【学習の内容】 各自が書き上げた「インタビュー報告書」を受講生同士で読み合い、インタビューする側/される側両方の立場からの「気づき」を通して、語りを生み出すインタビューの方法のポイントをまとめること。</p> <p>【キーワード】 語り手との出会い、相互行為としてのコミュニケーション、リフレキシビティ、対話</p> <p>【学習の課題】 受講生同士でお互いの「インタビュー報告書」を読み合い、話し合った内容を小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 桜井厚、小林多寿子（著）『ライフストーリー・インタビュー―質的研究入門』せりか書房、2005年。</p> <p>【学習する上での留意点】 インタビューの経験を重ねることで、よい聴き手に成長していくことができる。</p>
9. テーマ	質的研究法のデータ分析（1）：グラウンデッド・セオリー・アプローチ
	<p>【学習の目標】 質的研究における「データ分析とは何か」、一般的な質的データ分析の方法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 グラウンデッド・セオリーに依拠して、データの意味を理解するプロセスと一般的な質的データ分析について理解すること。</p> <p>【キーワード】 GTA, M-GTA, コーディング, カテゴリー構築, 理論生成</p> <p>【学習の課題】 文献レビュー：グラウンデッド・セオリー・アプローチの分析方法を用いた論文を読み、その構成要素に関する小レポートを作成すること。</p> <p>【参考文献】 木下康仁（著）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い』弘文堂、2003年。</p> <p>【学習する上での留意点】 GTAの分析方法を用いて実際にデータ分析が行えるように準備しておくこと。</p>
10. テーマ	質的研究法のデータ分析（2）：ナラティブ分析
	<p>【学習の目標】 質的研究における質的データ分析の方法であるナラティブ分析について理解する。</p> <p>【学習の内容】 ナラティブ分析の基本的な特徴と様々なアプローチ（テーマ分析・構造分析・対話/パフォーマンス分析・ヴィジュアル分析）の特徴と限界について理解した上で、説明することができること。</p> <p>【キーワード】 行為のシーケンス, 意図と言語, 主体性, 文脈, 物語世界</p> <p>【学習の課題】 文献レビュー：ナラティブ分析の分析方法を用いた論文を読み、その構成要素に関する小レポートを作成すること。</p> <p>【参考文献】 Riessman, C.K. (2008) Narrative methods for the human sciences. Thousand Oaks, CA: Sage.</p> <p>【学習する上での留意点】 ナラティブ分析を用いて実際にデータ分析が行えるように準備しておくこと。</p>
11. テーマ	質的研究法のデータ分析（3）：その他の分析方法
	<p>【学習の目標】 質的研究における様々な質的データ分析の方法の特徴について理解する。</p> <p>【学習の内容】 学問領域、テーマ、理論的枠組み、研究方法論によって異なるデータ分析の方法について理解し、自らの研究目的に合う分析方法を選択することができるようになる。</p> <p>【キーワード】 ライフストーリー, エスノグラフィー, エスノメソドロジー, エピソード記述, ケース・スタディ, アクション・リサーチ, 会話分析, 現象学的アプローチ</p> <p>【学習の課題】 文献レビュー：各自が興味を持った分析方法を用いた論文を読み、その構成要素に関する小レポートを作成すること。</p> <p>【参考文献】 教科書 pp. 124-128 参照。</p> <p>【学習する上での留意点】 講義で取り上げた方法以外にも様々な方法があるため、自ら進んで質的研究のデータ分析の方法を探求してほしい。</p>
12. テーマ	質的研究における評価
	<p>【学習の目標】 質的研究における「信頼性」「妥当性」を担保することの重要性を理解し、どのような手続きによって、それらを担保できるかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 実証主義的研究と質的研究における「信頼性」「妥当性」の意味の違いを理解した上で、質的研究における「信頼性」「妥当性」について説明することができること。</p> <p>【キーワード】 研究者の「構え」の明示・手続き的再現性・内的妥当性・外的妥当性（一般化）・トライアングレーション</p> <p>【学習の課題】 文献レビュー：質的研究の「質」を高めるための工夫がなされている論文を読み、そのポイントに関する小レポートを作成すること。</p> <p>【参考文献】 フリック、ウヴェ（著）『質的研究入門―“人間の科学”のための方法論―』</p> <p>【学習する上での留意点】 質的研究の「質」をどのように高めるかという問いに対する応答を考えながら学習すること。</p>
13. テーマ	データ分析の実践（1）
	<p>【学習の目標】 実際のインタビュー・データをグラウンデッド・セオリー・アプローチの方法を用いて分析し、分析結果レポートを作成する。</p> <p>【学習の内容】 実際にグラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いたデータ分析を体験する活動を行った上で、分析結果レポートを作成すること。</p> <p>【キーワード】 GTA, M-GTA, コーディング, カテゴリー構築, 理論生成</p> <p>【学習の課題】 プリントアウトしたデータに、線を引いたり、書き込みをしながら読み込み、データをユニットに分け、コーディングし、カテゴリーを構築する。最終的にカテゴリー同士の関係を考え、理論を生成すること。</p> <p>【参考文献】 木下康仁（著）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い』弘文堂、2003年。</p> <p>【学習する上での留意点】 データの意味を深く理解するためには、「記述」と「解釈」の間を「行きつ戻りする」ことが求められる。</p>

14. テーマ	データ分析の実践（2）分析結果の記述と考察
	<p>【学習の目標】 データ分析の体験と分析結果レポート作成を通して、質的研究の分析結果の記述と考察についての理解を深めること。</p> <p>【学習の内容】 各自が書き上げた「分析結果」を受講生同士で読み合い、分析を通じての「気づき」や「学び」を共有し、分析する上での重要なポイントをまとめること。</p> <p>【キーワード】 GTA, M-GTA, コーディング, カテゴリー構築, 理論/概念生成</p> <p>【学習の課題】 受講生同士でお互いの「分析結果」を読み合い、話し合った内容を小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 西条剛央（著）『ライブ講義・質的研究とは何か SCQRM ベーシック編』新曜社、2007年。木下康仁（著）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践－質的研究への誘い』弘文堂、2003年。</p> <p>【学習する上での留意点】 自分が作成した分析結果の記述と考察について、以下の点を中心にふりかえること。「インタビューした人のことばを生き生きと伝えるものとなっていたか」、「わかりやすく説得力をもった記述になっていたか」。</p>
15. テーマ	ふりかえりと総括
	<p>【学習の目標】 本講義のまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】 前半で講義全体を振り返りながら討議し、後半でまとめを行う。</p> <p>【キーワード】 内省と対話による学びの深化</p> <p>【学習の課題】 質的研究法の特徴・サンプリング・調査法・データ分析等について理解したことを自分の言葉で説明すること。</p> <p>【参考文献】 特になし。</p> <p>【学習する上での留意点】 質的研究法について本授業で理解したことをグループ討議や意見交換を通じ振り返り自分なりに総括すること。</p>